

2018 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	手塚 利彰
研究テーマ	近世チベット文書「カンカル家文書」の研究
研究概要	西チベット・ポロン地方の名望家カンカル家が伝承してきた古文書群のうち、カンカル家が歴任してきたチーキャブ職に関連したポロン領関係の公文書を中心に、翻字テキストの作成、分析・研究などに取り組む。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>①カンカル家文書の現状と公開</p> <p>カンカル家文書のうち、チーキャブ職に関連したポロン領関係の公文書は、所有者のツルティムケティムケサン大谷大学名誉教授により、大谷大学図書館に寄贈された。また、Web公開の準備も進めている。</p> <p>②現地調査・学術シンポジウムの報告の作成と公刊、Web公開</p> <p>Web公開に着手しつつ公刊の準備中。</p> <p>公開先<a href="http://www.interq.or.jp/neptune/amba-omo/kangdkar/houkoku001.html">http://www.interq.or.jp/neptune/amba-omo/kangdkar/houkoku001.html</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2014年に実施した国際学術シンポジウム(12月13日)の報告者6名のうち、黒田有誌氏の文章を公開済み。</li> <li>・手塚本人の報告のほか、チンゲル・ツルティムケサン・山田・大西の各氏の報告を、音源よりテキスト化する作業を進行中。</li> </ul>
2. 今後の課題	<p>①次の2項目を、2019年度前半を目処に完了する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンカル家文書のWeb公開</li> <li>・現地調査・学術シンポジウムの報告の作成と公刊、Web公開</li> </ul> <p>②2002年から2016年にかけて行った5回の学会報告の成果を早急に論文化する。</p>